

中央銀行パネル：「日本銀行の量的緩和政策の出口戦略
—ソフトランディング・シナリオを目指して—」

量的緩和策を巡る評価について

日本経済新聞社 藤井良広

日銀は2001年3月に量的緩和策を導入した。これまでの金利政策を放棄し、さらなる追加緩和の策として、金融機関に対して超過準備の供給を通じる方法を導入した。同政策の成果については①さらなる緩和効果②ポートフォリオリバランス効果③期待効果の3点とともに、金融システムの下支え効果が指摘された。まず、これらの政策の何が効き、その限界は何だったのかを論じる。次に、巷間、もっとも効いたのは金融システム下支え効果だったといわれるが、その評価をする。さらに、中央銀行の政策目的としての物価の安定と、金融システムの安定策との関係についても考えたい。議事録要旨を見る限り、金融システム安定化策を重視した政策判断はとられたとは思えない。システム安定化策は政府の公的資金注入策、その後の健全化政策とどう絡んだのか。量的緩和策は、政策目的としての物価安定化策（デフレからの脱却）にどうつながったのか。金融システム安定化策が物価安定につながったのかを考えたい。これらを受けて、日銀の政策目的を改めて振り返りたい。